

第10次高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画の進捗状況について

柱(中目標)1:高齢期を自分らしく暮らせている

【施策領域(1):健康づくり・介護予防】

施策① 健康づくりの推進・介護予防の充実 (P14～)

【目標値】:介護予防教室の新規参加者数

新規に介護予防に取り組む高齢者数(令和6年度以降は健幸すぽっとでの人数を含む)の把握により、介護予防の促進を図る。

(単位:人)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値	100	150	200	400	600	700
実績値	179	158	381	1678	1067	
[評価と今後] 令和7年度は、「健幸すぽっと」開設初年度である6年度と比較すると、新規登録者数が落ち着いたこともあり、全体の人数は減少しました。健康教室では、新たな団体から申し込みがあり、教室参加者にフレイル予防の啓発を行うことができました。自治会や老人クラブをはじめとする集まりでの教室が実施できるように、周知を進めるとともに、様々な機会をとらえて、フレイル予防の重要性について発信することに加え、取り組みの効果を実感し、継続していただける工夫が必要と考えています。						

【目標値】:「自分サポーター」養成講座の修了者数

「自分サポーター」養成講座の修了者数を把握し、健康意識の向上と介護予防の促進を図る。

(単位:人)

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値	90	90	90
実績値	151	123	
[評価と今後] 令和7年度は、自分サポーター養成講座を7回開催し、123人が修了しました。幅広い参加が得られるように、座学だけでなく、ウェルネスダーツやスクエアステップ、ボッチャなどの体験を取り入れたテーマ型講座を開催しました。また、自治会や老人クラブへの出前講座も実施しました。 今後も自分サポーター養成講座の実施を継続し、自身の健康意識の向上と介護予防に取り組むための自己啓発の機会を提供していきます。			

【施策領域(2):社会参画】

施策① 就労や趣味活動・生涯学習等の促進 (P17～)

施策② 高齢福祉分野のボランティア確保・育成

施策③ 居場所・活動拠点の充実

施策④ 高齢者の移動・外出支援

【目標値】:「地域お助けサポーター」の養成及び利用促進

①「地域お助けサポーター」養成講座の修了者数を把握し、助けあい意識の向上とボランティア活動の促進を図る。

②制度説明会に参加したケアマネジャー(居宅における介護支援専門員業務を行う者をいう。以下同じ)へのアンケート実施により、「地域お助けサポーター」への理解度(4段階の平均値)を把握し、周知と利用の促進を図る。(新規)

① 修了者数

(単位:人)

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値	20	20	20
実績値	12	12	

【評価と今後】

令和7年度は、地域お助けサポーター養成講座を全市域対象に2回、出前講座を1回開催し、12人が修了しました。そのうち6人が地域お助けサポーターとして登録されました。養成講座では、現在活動されている地域お助けサポーターの紹介・交流や地域密着型サービス事業所の見学、介護予防サロンの運営補助体験を行い、現場の生の声を受講者へ伝えることで活動意欲を高める工夫を図っています。講座修了後、ゴミ出し支援や自分サポーター養成講座の運営支援などの活動につなげることができました。

自分サポーターからのステップアップとして、習得した知識や技術を生かし、やりがいを感じてもらいながら活動を継続できるよう活動支援を行います。また、修了者が計画数に届いていないことから、今後は、地域のニーズを把握し、自治会などを単位とする地域での講座の開催や活動支援にも力を入れて取り組んでいきたいと考えています。

② 理解度

(単位:段階)

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値	3.6	3.6	3.6
実績値	3.5	3.0	

【評価と今後】

令和7年度は、制度説明会ではなく、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、小規模多機能型居宅介護事業所においてケアマネジメント業務を行う職員へのアンケート調査により「地域お

助けサポーター」への理解度を把握しました(対象者数 89 件、有効回答数 76 件、有効回答率 85.4%)。

全体としては、制度説明会を実施した令和 6 年度より 5 ポイント減少していますが、地域包括支援センターでは 3.6 と高い理解度となっており、「地域お助けサポーター」の支え合いの活動が地域の社会資源のひとつとして認知されていることがうかがえます。

今後も定期的な制度説明会の開催や広報等を通して、ケアマネジャーに対して地域で活用できる社会資源のひとつとして普及できるように取り組みます。

【目標値】:「健幸すぽっと」に来館した 60 歳以上の年間延人数(新規)

「老人福祉センター竹寿苑」を、健康長寿を応援する施設「健幸すぽっと」として今年度中に移転・再整備する。来館者のうち 60 歳以上の延人数を把握し、利用の促進を図る。

(単位:人)

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
目標値	10,000	36,000	48,000
実績値	12,585	43,506	
【評価と今後】 令和 6 年 11 月に供用開始してから、各関係機関の協力を得て、健幸すぽっとの役割を周知し、約 1 年が経過しました。旧老人福祉センターから利用するサークル・団体利用も移転後、定期的に活動されるようになりました。また、新たな利用者も増加傾向にあり、温水設備(水中ウォーキング)やトレーニングなど利用されています。 今後、多世代交流も含め多くの方が気軽に利用できることの啓発を行います。			

【施策領域(3):高齢者虐待防止・権利擁護】

施策① 高齢者虐待の予防と対策の強化(P20～)

施策② 成年後見制度等の利用支援

【目標値】:介護相談員派遣回数

介護サービス施設・事業所への介護相談員の派遣回数を維持・増加させることで、虐待の未然防止と早期発見を図る。

(単位:回)

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
目標値				176	176	176
実績値	54	120	146	123	144	

〔評価と今後〕

令和8年3月末時点で、相談員7名、受入事業所 8 事業所。
 コロナウィルス感染拡大防止のため受け入れの中止が続いていましたが、令和 5 年 4 月からは 8 事業所全てで受入を開始しています。しかし、今年度も施設内での感染症流行のため、相談員の受入不可の月や相談員の体調不良による訪問キャンセルもありました。また、令和7年度も6年度に続いて、相談員に年度途中の活動辞退等の事態が発生し、相談員 1 名で訪問している事業所があるため、派遣回数は目標値より少なくなっています。
 受入可能な事業所の拡大に向けて、周知啓発をしていくとともに、次年度の相談員確保に向けて、広報紙や市ホームページへの掲載を通じて募集を行います。

【目標値】:成年後見制度に関する市民向け講座・講演会参加者の内、講座・講演会が参考になったと回答した人の割合

成年後見制度の講座・講演会に参加した人へのアンケート実施により、講演内容が参考になったと回答した人の割合を高めることで、講座や講演会の内容を市民のニーズに沿ったものとする。

(単位：％)

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和6年度	令和7年度	令和 8 年度
目標値				96.0	96.0	96.0
実績値	91.1	96.0	100.0	96.5	100.0	

〔評価と今後〕

12 月 17 日「市民のための成年後見制度活用講座」を、地域包括支援センター(基幹型)及び総合生活支援センターの共催で実施しました。オンライン配信も併用し、32 名の方が参加、視聴されました。アンケートは、18 名の方が回答され、100％の方が参考になったと回答されました。オンライン配信の参加も増加しており、市民や福祉事業所の職員の参加も見られました。今後も引き続き、幅広い層に参加してもらえるよう周知していきます。

柱(中目標)2:介護等が必要になったときも安心して暮らせている

【施策領域(1):介護保険サービス】

施策① 介護保険サービスの計画的な整備 (P23～)

施策② 生活支援サービスの計画的な整備

施策③ 介護保険制度の適正運営

施策④ 介護給付の適正化

【目標値】:住民主体で行う互助・共助の地域づくりの数(新規)

住民が主体的に行っている、高齢者の地域生活を互助・共助で支える地域づくりの数(自治会などを単位とする地域数。生活支援コーディネーターが把握するもの)が増加することで、日頃から近隣住民同士が支えあえる関係づくりを促進する。

(単位:地域)

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値	34	35	36
実績値	43	57	

【評価と今後】

令和7年度は新たに把握した15地域を加え、必要に応じた支援を行いました。自治会未組織地域で高齢者が集まる場づくりについて地域住民や介護事業所と意見交換を行ったり、地域の高校の生徒が講師役となり、高齢者向けのスマホ講座を開催し、双方の知識と経験の共有の機会をつくりました。

ゴミ出しや買い物などの困りごとがある地域については、生活支援コーディネーターが、地域お助けサポーターのマッチングを進めるとともに、やすらぎクラブや商店と協力してお買い物便利ガイドの作成に取り組みました。これらの地域づくりの状況について、毎月関係機関・部署において共有を行っています。

今後も安定した地域での支えあい活動を継続していきけるように、地域性などの特色を把握しながら、各地域の取り組みが波及するよう進めていきます。

【目標値】:ケアプラン点検参加者の内、参考になったと回答した人の割合 (新規)

ケアプラン点検に参加した人(自己点検者、他者点検者)へのアンケート実施により、点検内容が参考になったと回答した人の割合を高めることで、ケアプランの質の向上を図る。

(単位：％)

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値	90	90	90
実績値	100	100	
[評価と今後] 「京都式」ケアプラン点検ガイドラインを用いて、介護のケアプランに対するケアプラン点検を1回開催しました。居宅介護支援事業所と市職員(リハビリ職・保健師・介護保険担当者)が参加し、多角的な視点でアセスメントの過程における気づきを共有することが出来ました。他者が作成するプランを検証しながら、今後のアセスメントやプラン作成に活かせるような意見交換をしました。 今後も定期的にケアプラン点検を開催し、ケアマネジャーの資質向上やケアマネジメントの質の向上を図り、得られた気づきを次のアセスメントに役立てられるように取り組みます。			

【施策領域(2):人材確保及び介護現場の生産性向上の推進】

施策① 介護人材の確保・定着支援 (P29～)

施策② ケアマネジメントの人材確保・育成

施策③ 介護認定等業務の効率化

【目標値】:福祉就職フェアへの来場者数(新規)

毎年定期的に福祉就職フェアの実施を継続して、福祉分野への就職・転職を望んでいる方とのマッチングの場を設け、介護人材を確保する。

(単位：人)

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値	33	33	33
実績値	18	35	
[評価と今後] 令和7年10月に就職フェアを実施しました。17事業所(介護13、障がい4)が出展し、例年より多い35人の求職者が来場しました。5名(介護4、障がい1)が採用され、介護人材の確保に繋がりました。京都府の人材センターと連携して開催することで、無資格者に対しても相談の場を設けることができ、福祉の仕事に対する魅力を伝えることができました。 今後も開催を継続することで、福祉分野へ興味を持たれている方と事業所とのマッチングを推進し、介護人材の確保に取り組みます。公共施設や駅へのチラシの配架、折込チラシやLINE、デジタルサイネージを用いた市内全域に対する広報で、来場者の確保を図ります。			

【目標値】：ケアマネジャーの各種制度の理解度(4段階の平均値)【新規】

制度説明会に参加したケアマネジャーへのアンケート実施により、各種制度への理解度(4段階の平均値)を維持することで、ケアマネジメントの人材育成を促進する。

(単位：段階)

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値	3.7	3.7	3.7
実績値	3.5	3.3	
【評価と今後】 令和7年度は、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、小規模多機能型居宅介護事業所においてケアマネジメント業務を行う職員へのアンケート調査により各種制度への理解度を把握しました(対象者数89件、有効回答数76件、有効回答率85.4%)。また、各種制度の利用に関する手引きの充実を図り、ケアマネジャーへ配布しました。 今後は、アンケート調査の結果を踏まえ、定期的に制度説明会を開催するとともに、理解促進が必要な施策や事業について重点的に普及啓発を行うなど、ケアマネジャーの理解をより深められるように取り組みます。			

【施策領域(3)：地域包括ケアシステムの基盤】

施策① 地域包括支援センターの機能強化 (P33～)

施策② 在宅医療・介護の連携強化

施策③ 災害・感染症に対する備えへの支援

【目標値】：アウトリーチによる地域包括支援センター(校区)の周知回数・延参加者数(新規)

地域包括支援センターの職員が地域活動の場等へ出向き、地域包括支援センターについて周知する①回数や②延参加者数を増やすことで、困ったときに相談しやすい環境づくりを促進する。

① 回数

(単位：回)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値				48	48	48
実績値	21	40	93	64	60	

② 延参加者数

(単位：人)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値				1,500	1,500	1,500
実績値	256	934	1,710	1,991	1,712	

【評価と今後】

出張講座や相談会、健康フェスタで地域包括支援センターの周知、啓発を行いました。また、未組織地域の民生委員が各戸を訪問する際に同行し、地域包括支援センターの周知を図りました。令和 7 年度からは、民生委員に依頼して実施する高齢者実態調査での訪問時に、チラシを配布しました。

これまで知る機会のなかった方へ相談窓口や包括の役割を知っていただくとともに、毎年講座依頼のある団体へは包括の認識を深めていただくよう周知徹底を図ります。

【施策領域(4):認知症対策】

施策① 認知症に関する理解・普及啓発の充実 (P37～)

施策② 認知症の早期発見・早期対応等の推進

施策③ 認知症サポーター活動の推進

施策④ 認知症等による行方不明者の早期発見

【目標値】:認知症サポーター養成講座の参加人数

認知症サポーター養成講座の参加人数を増やすことにより、認知症の普及啓発を促進する。

(単位:人)

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和6年度	令和7年度	令和 8 年度
目標値				300	300	300
実績値	395	242	232	769	801	

【評価と今後】

参加人数の実績値が目標値を大きく上回りました。市社協と連携し、市内小学校の福祉教育のひとつとして、認知症について考える機会を小学生に提供することができました。小学生への授業では、圏域内の福祉事業所に所属するキャラバン・メイトと連携しながら実施するなど、地域で支えるという大切さも伝えることができました。

今後は、子どもたちや高齢者といった世代に加え、働いている世代への啓発も実施をしていくことで、幅広い世代で認知症の正しい理解を促進していきます。

【目標値】:行方不明になった人のうち、事前登録をしていた人の割合

行方不明の可能性のある人の「おでかけあんしん見守り事業」への登録状況を高めることにより、見守り体制の整備を促進する。

(単位:%)

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和6年度	令和7年度	令和 8 年度
目標値				70	70	70
実績値	80	67	67	71.4	83.3	

【評価と今後】

行方不明になるおそれのある方の家族等に対し、本事業の趣旨や個人情報の公開範囲等について丁寧に説明を行い、安心して事前登録をしていただくことができました。支援者、地域団体や住民への周知活動も積極的に行い、必要な方の登録推進及び地域の見守りネットワークの

強化を図りました。

事前登録の際、16ヶ月間無料で利用できるブルートゥースタグを配布しており、行方不明発生時に有効な手掛かりになる可能性も高いことから、事前登録と併せて引き続き普及啓発を行っています。

【施策領域(5):見守り体制】

施策① 家族介護者支援の充実 (P4 1～)

施策② 日々の見守り体制の充実

【目標値】:介護保険外ホームヘルプ等利用費助成利用率(新規)

介護保険外ホームヘルプ等の利用にかかる費用を助成する制度の利用率(配付枚数に対する利用枚数)を高めることにより、介護をしている家族のリフレッシュ機会を促進する。

(単位: %)

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和6年度	令和7年度	令和 8 年度
目標値				50	50	50
実績値	46.5	41	45	41	40.5	

【評価と今後】

事業の周知が進み、申請者数は増加傾向にありますが、実際の利用件数は比例して伸びていないことで利用率は上がっていません。令和7年度は、令和6年度から事業所登録された訪問美容を利用される方が多い印象でした。

令和8年度は、介護タクシーの事業所2か所が新たに登録事業所となり、サービスの選択肢が増える見込みです。今後も介護者の負担軽減のため、事業の周知を行い、利用促進に努めていきます。